

平成 26 年度 日本庭園学会全国大会
シンポジウム・研究発表資料集

平成 26 年 6 月 21・22 日

ホテルイタリア軒・旧齋藤家別邸・北方文化博物館新潟分館
清水園・石泉荘・北方文化博物館本館（伊藤家庭園）

目次

| | |
|--|----|
| 平成26年度 日本庭園学会全国大会 開催概要 | 3 |
| 開催内容・プログラム | 3 |
| シンポジウム「自然主義風景式庭園の潮流と旧齋藤家別邸庭園 ～存在の意味と意義を考える～」 | 6 |
| ・ニハ（庭）としての都市 ——庭という思想の射程 中村 良夫 | 7 |
| ・地域活性化ツールとしての文化財の社会的価値 池邊このみ | 12 |
| ・日本庭園とまちをつなぐ～行政参加のまちづくり 池田 博俊 | 14 |
| ・都市の品格とまちづくり～市民が日本庭園を手にしたことによる市民意識の変化～ 松山 雄二 | 16 |
| ・新潟市の西大畑・旭町界隈の歴史的建造物と庭園 大倉 宏 | 18 |
| グラフー旧齋藤氏別邸庭園の大瀧 | 20 |
| 研究発表 | 21 |
| ・旧齋藤氏別邸庭園の作庭を行った庭師・松本亀吉の事績 松本 恵樹 | 24 |
| ・名勝無鄰庵庭園の恒常維持管理の実態と本質的意味 今江 秀史・阪上 富男・加藤 友規 | 28 |
| ・都ホテル葵殿庭園における流れのき損の仕組みと導き出せる修理の本質 阪上 富男・加藤 友規・今江 秀史 | 30 |
| ・米国・サラトガ市 箱根庭園修復支援 土沼 直亮 | 36 |
| ・古代韓国庭園の園地に関する研究 洪 光 杓・李 赫 宰 | 38 |
| ・朝鮮時代中期の隠棲庭園瀟灑園の庭園構成と造営意図に関する考察 孫 旻 愷・藤井英二郎 | 44 |

「都ホテル葵殿庭園における流れのき損の仕組みと導き出せる修理の本質」

The Structure of Stream Damages and the Essence of Repairing Method founded in the Repairing Process
in Aoi-den Garden of Westin Miyako Hotel

○阪上富男¹ 加藤友規¹ 今江秀史²

Tomio Sakaue¹ Tomoki Katou¹ Hidefumi Imae²

植彌加藤造園株式会社¹ 京都市文化市民局文化財保護課²

Ueyakato Landscape Co., Ltd.¹

The Kyoto City Culture and Citizens Affairs Bureau, Cultural Properties Protection Division²

Key Words : 1. 都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園 2. 文化財庭園 3. 緊急修理

1. Aoi-den Garden and Kaisui-en Garden of Westin Miyako Hotel

2. Cultural Properties (Scenic Beauty) 3. Emergency Repair

はじめに

ウェスティン都ホテル京都(京都市左京区)の宴会場・葵殿に併設する「京都市登録名勝都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園」¹⁾のうちのひとつ葵殿庭園は、昭和8年(1933)七代目小川治兵衛によって作庭された。

都ホテル葵殿庭園は、現在の葵殿RC造へ建て替えられた際、一部に改修が行われ、市の名勝に登録された平成6年(1994)以降、記録上、地割にはほとんど手が付けられず、恒常維持管理だけが行われていた。

平成18年、雲井の滝の上部において、前述の改修時に指導を行った現・京都造形芸術大学教授の尼崎博正氏の下で、滝の流れ底に開いた数箇所穴、及び漏れ出た水が流れるその直下の水みち、また穿鑿された地盤の空隙の修理が行われた。

その後、恒常維持管理では想定されていなかった、植栽樹木の復元や一部地割の修理が漸続的に行われた。本修理はそうしたゆるやかな保存管理事業の延長線上で実施された。それらは、個別にみれば緊急修理(特定のき損箇所の応急処置)の蓄積であるが、平成21年には保存管理計画が策定されるなど、継続して積極的な保存管理が行われているところからすれば、定期修理(庭の広範囲を対象とした抜本修理)の一環としてみることができる。

作庭よりおよそ80年を経過した平成24年(2012)に発見された漏水箇所において、仮補修と併せて考古学的調査(トレンチ調査)を行ったところ、抜本的な修理が

必要であることが発覚したため、翌年の平成25年(2013)に滝と流れを対象とした緊急修理を行うことになった。本稿は、その緊急修理の内容を概説した上で、文化財庭園の修理を通じて見出される庭の仕組みについて検証するものである。

1. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究の目的は、平成25年度に実施された、京都市登録名勝の葵殿庭園の滝と流れの修理事業を通して、考古学的調査を通じて導き出された修理方法から、庭園が修理されることによって、結果的に明るみに出されてくる庭園の本質的意味合いについて検証するものである。

(2) 研究の方法

平成25年度に実施された葵殿庭園の滝と流れの修理事業について、考古学的調査を通じて、き損の仕組みを推察した上で、どのような手法で修理したかを概説する。次に考古学的調査での推察と、その調査成果を実際の修理に転換していく上で生じた不測の事態を列記する。き損の仕組みは、考古学的調査で観察された自然と人為の双方に関する過去の痕跡を辿ることで、結果的に導き出されてくるものである。それは、推察とはいえ、現前の痕跡という歴然とした事実に基づいている。しかし、その一方で考古学的調査の結果は、修理手法の基礎資料になり得ても、修理方法を直ちに教示するものではない。

修理の実務者は、考古学的調査の結果に即して、現代の技能と限られた予算で修理を行うための、検討と工夫を行う必要がある。通常、考古学的調査の推察と修理実施の間に「隔たり」があり、それは修理現場内で解消されるが、実はそこにこそ修理の核心と、庭園が持つ構造上の本質的意味合いが潜在していると考えられる。

そこで、考古学的調査の推察という事実と、修理実施を行う過程で生じる「隔たり」という事実、この二つの局面を重ねることによって、浮き彫りとなる地割の仕組み上の働きを取り上げ、さらにその働きが庭において意味するところを検証し、文化財庭園の修理の本質的意味合いを明るみに出す。

2. き損の仕組みと原因の推察

平成25年度実施の、葵殿庭園の滝と流れを対象とした考古学的調査を通じて推察したき損の仕組みは、以下の通りである。トレンチ箇所は現地踏査（外観調査）に基づき決定し、11箇所及び考古学的調査を行った。修理内容の詳細は、学識経験者と文化財保護担当者の立会をもって検討した。以下の記載事項は、図1形態概念図をもとに検討を行った。

(1) き損の仕組み

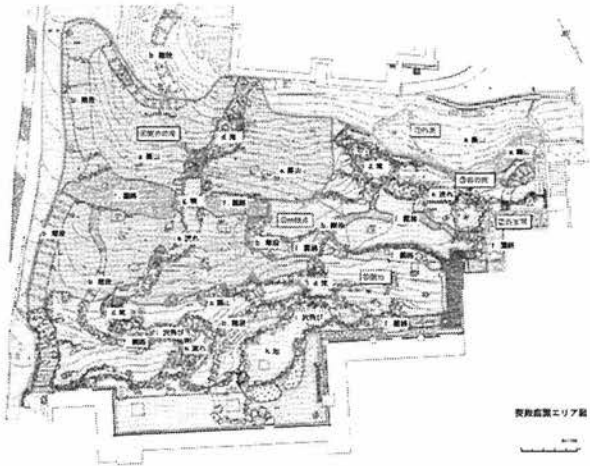
考古学的調査により推察されるき損の仕組みは、5項目にまとめることができる。修理工程及び修理体制は表1、2に記載した。

① 流れ床のモルタルの亀裂

流れ床のモルタルは、経年による劣化から亀裂が生じ、亀裂した箇所からの漏水がはじまる。その後起こる亀裂の広がり具合は場所により異なるが、亀裂が生じた部分から流れ床のモルタルの下部の地盤へと漏水し、土壌が軟弱化する。軟弱となった地盤は、流水によって穿鑿され、表土の流失によって空隙が生じ、水みちが形成される。さらにその空隙に、護岸の周辺に植栽された樹木の根茎が侵入し、周囲が樹木の根茎によって攪乱を受け、き損が助長される。

き損の箇所の断面は、流れ床のモルタルを貫通し、その下部には水みちとなった空隙ができ、さらに下部には樹木の根茎により攪乱され、土壌化した土の層ができていく。流れ床のモルタルは、空隙が拡大するにつれて、地盤の支持を失う状況となり、加えて成長し肥大した樹

図1 ウェスティン都ホテル 葵殿庭園 形態概念図



木の根茎が、下部から圧力をかけることにより流れ床のモルタルの亀裂を連続的に誘引する。

② 護岸石の目地の剥離

護岸石の目地に用いられているモルタルは経年劣化により剥離する。

その箇所から漏水がはじまり、護岸裏の地盤へと水が浸透し、土壌が軟弱化する。護岸石の周りの土は軟弱化し、次第に流水により穿鑿され、水みちが形成される。そこから地表に流れ出した水は、法面の表土を洗い流してゆく。また、漏水が続けば、最終的に護岸石が傾倒する可能性がある。

③ 護岸石と流れ床のモルタルの剥離

護岸石と流れ床のモルタルは、素材が異なるため、接合部分は剥離しやすい。剥離した箇所からは流水が侵入し、流れ床のモルタル及び護岸石の下部、双方の地盤を同時に浸食していく。この漏水の仕組みは、①②と同様であるが、複合的である分、浸食の速度は速く、かつ度合いは大きくなるため、護岸石や水落ち石の際における

表1 葵殿庭園 修理工程

| 工程 | 作業内容 | 担当 |
|----|--------------------|---------------------|
| 1 | 準備・養生 | (a) (c) (d) |
| 2 | 解体・掘削 | (a) (c) (e) |
| 3 | 調査・現地検分 | (a) (b) (c) (d) (e) |
| 4 | き損箇所の検討 修理手法の確定 | (a) (b) (c) (e) |
| 5 | 施工 | (a) (c) (e) |
| 6 | 仕上げ・清掃 | (a) (c) (d) (e) |

(a) 保存管理者 (b) 学識経験者 (c) 文化財保護担当者
(d) 所管担当者 (e) 調査担当者

表2 葵殿庭園 修理体制

| | |
|-----|--------------------------------|
| (a) | 阪上富男、加藤末男 杉原信彦、掛水峰男(植彌加藤造園) |
| (b) | 尼崎博正(京都造形芸術大学教授) |
| (c) | 今江秀史(京都市文化市民局文化財保護課) |
| (d) | ウェスティン都ホテル京都 |
| (e) | 田中誠、北森さやか(植彌加藤造園) |

平成 26 年度 日本庭園学会全国大会シンポジウム・研究発表資料集

| | |
|-----|--|
| 発行日 | 2014 年 6 月 21 日 |
| 編集 | 栗野 隆（東京農業大学／平成 25 年度日本庭園学会全国大会運営委員会） |
| 発行 | 日本庭園学会 〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-11 有限会社造園会館気付 |
| 印刷 | 創文印刷工業株式会社 |